

# 瀬田川プランクトン調査結果速報

滋賀県立衛生環境センター  
平成11年8月9日 第19報

## 植物プランクトン

(綱) 種 名	細胞数 (群体数)	優占種(占有率)	
		数	体積
(藍) <i>Gomphosphaeria lacustris</i> *	10		
(藍) <i>Anabaena spiroides var. crassa</i> *	1		
(藍) <i>Oscillatoria sp.</i> *	20		
(珪) <i>Melosira granulata</i>	59		
(珪) <i>Melosira granulata var. angustissima f. spiralis</i>	39		
(珪) <i>Cyclotella sp.</i>	10		
(珪) <i>Fragilaria crotonensis</i>	63		
(珪) <i>Fragilaria capucina</i>	3		
(珪) <i>Synedra sp.</i>	10		
(珪) <i>Navicula sp.</i>	10		
(珪) <i>Nitzschia sp.</i>	20		
(渦) <i>Peridinium berolinense</i>	10		
(褐) <i>Cryptomonas sp.</i>	40		
(褐) <i>Rhodomonas sp.</i>	440		
(緑) <i>Kirchneriella contorta</i>	80		
(緑) <i>Kirchneriella obesa</i>	67		
(緑) <i>Schroederia setigera</i>	10		
(緑) <i>Pediastrum biwae</i>	80		
(緑) <i>Coelastrum microporum</i>	32		
(緑) <i>Scenedesmus granulatus</i>	20		
(緑) <i>Scenedesmus sp.</i>	40		
(緑) <i>Staurastrum dorsidentiferum var. ornatum</i>	1		
(緑) <i>Cosmocladium constrictum</i>	16		
(他) その他の植物プランクトン	10		
(藍) 藍藻綱	31	2.8	0.7
(黄) 黄緑藻綱	0	0.0	0.0
(黄鞭) 黄色鞭毛藻綱	0	0.0	0.0
(珪) 珪藻綱	214	19.6	32.1
(渦) 渦鞭毛藻綱	10	0.9	0.6
(褐) 褐色鞭毛藻綱	480	44.0	28.8
(み) みどり虫藻綱	0	0.0	0.0
(緑) 緑藻綱	346	31.7	37.8
(他) その他のプランクトン	10	0.9	0.0
総細胞数	1091	総体積	5.0E+05
種類数	24	( $\mu\text{m}^3$ )	

注1) 細胞数の単位は(細胞/ml)

ただし\*印の種は群体数(群体/ml)

注2) 優占種は が第1優占種、 が第2優占種  
数字は各綱ごとの占有率(単位:%)

注3) 細胞体積は、顕微鏡観察による画像から  
試験的に推定した概算値である。

## 動物プランクトン

第1優占種		個体数 (個体/l)
甲殻類	<i>Nauplius</i>	30

第2優占種		個体数 (個体/l)
甲殻類	<i>Bosmina longirostris</i>	10

\*個体数については、プランクトンネットで採取したものを直接検鏡して計測した。

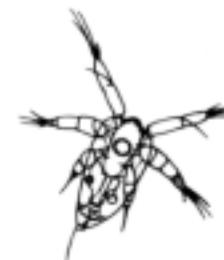
### 植物プランクトン第1優占種



**Rhodomonas sp.**  
(ロードモナス)  
褐色鞭毛藻綱

細胞は、長楕円形で長さが約10 $\mu\text{m}$ と小型であり、葉緑体は少し赤みを帯びている。2本の鞭毛を有する。

### 動物プランクトン第1優占種



**Nauplius**  
(ノウプリウス)  
甲殻類

ケンミジンコ等のミジンコ類の幼生。  
中央に円盤状の口を有する。

### コメント:

植物プランクトン相は、珪藻綱、褐色鞭毛藻、緑藻がそれぞれ同程度の占有率で存在し、特に際だって存在している種類も見られず、全体的な細胞数・総体積も比較的小さい。

動物プランクトンで第1優占種としたノウプリウスはミジンコの幼生であり、種としては本来はミジンコとして扱うべきものであるが、当所では生物相を特徴づける比較的観察しやすい生物であることから、便宜的に一つの個体群として扱っている。本群の増殖はミジンコの世代交代が起こったことを示しており、今後のミジンコの増加の予兆とも考えられる。